

北野天満宮に梅の香を訪ねて

(第 68 回くらわん会 2001/02/05)

立春を過ぎたばかりの2月5日、早春の古都京都を訪ねる。集合地の二条駅近くに集まった会員は、天気予報が芳しくなかったにもかかわらず150名と、遂に「くらわん会」新記録だった。さらに50回参加者の表彰が6名とますます盛況である。

珍しく体調を崩されて今回同行できなかった原会長の挨拶、恒例の多数回参加者の表彰、新参加者の紹介の後、担当の長川世話人からコース説明があり、佐々山世話人のリードで準備体操をする。

曇り空の下を平安宮豊楽殿跡を經由して、中立売通りを北野天満宮に向かう。心配された天気であったが、さすがに雨に遭わない伝統のくらわん会、北野天満宮に着く頃には薄日が射して絶好の歩き日和である。

北野天満宮は菅原道真公をお祀りした、有名な学問の神様である。千余年前の村上天皇天曆元年(西暦947年)幼い頃から大変勉学に励まれ最年少で国家試験に合格し、その後右大臣として政治にも活躍された道真公をお祀りして当所に御鎮座されたと言われる。

境内には白梅、紅梅、黄梅がちらほら咲き始め、これまた有名な「撫で牛」と程良いコントラストであった。平日にも拘わらず受験生の親らしき人の姿も見られた。しばしの休憩と参拝、梅の香を楽しんだ後、北門を出て近くの平野神社に立ち寄る。この神社は西暦794年の建立であるが、独特の桧皮葺きの屋根と鬱蒼とした木々が見事であ

二条駅近くに百五十名が集まり、くらわん会の新記録となる



千本丸太町近くにある平安宮内、主として天皇の饗宴に使われた豊楽殿跡を經由してゆく



七本松通りを抜け、中立売通りの北野商店街を天満宮に向かう



文道の大祖・風月の本主「菅原道真公」の額が掲げてある北野天満宮の楼門



北野天満宮は、最年少で国家試験に合格、右大臣として活躍された菅原道真公をお祀りした有名な学問の神





中門（重文）桃山風の装飾彫刻の四脚唐門は「三光門」、梁間に日輪、月輪、三日月の三つの光を象徴する彫刻



撫で牛の像は、菅原道真公が亡くなったのが丑の年、丑の日、丑の刻というところから奉納された



「東風（こち）吹かば匂ひおこせよ梅の花 主（あるじ）なしとて春を忘るな」と詠まれた菅原道真公は、ことのほか梅を愛され、北野天満宮には約二万坪の境内に五十種約二千本（門内・梅苑各千本つつ）の梅がある



豊臣秀頼が慶長に寄進した北野神社本殿（国宝）は八棟造りといわれ華麗な花鳥や人物や動物の彫刻がある

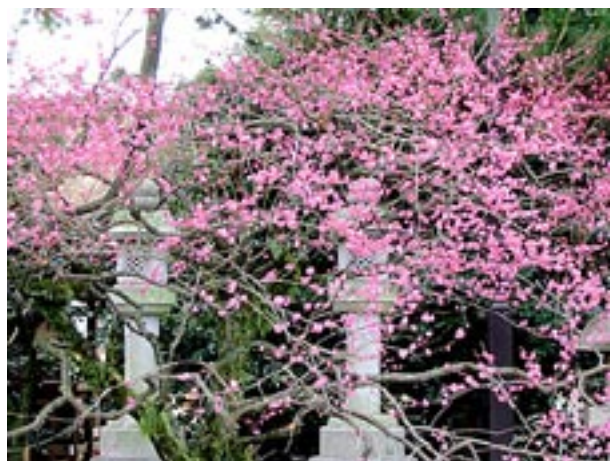
る。

本日入試が行われている立命館大学の校門前を抜け、「きぬかけの路」を石庭で有名な龍安寺前を通って仁和寺前に西進する。午前中はやや早めのピッチ、人によっては汗ばむほど体が温まる。仁和寺の見事な二王門前からは道幅が狭く車が多いので、安全のため三班に分かれてすすみ、昼食場所の宇多野すりばち池公園に到着する。お昼を少し過ぎたが、待ち遠しかった昼食のため思い思いに座を囲んだ。

広沢池は、残念ながら水抜きして工事中、水をたたえた姿をイメージしながら嵐山へと進む。洛西の路は林あり、畑あり、民家あり独特の風情である。途中車を避けて住宅地を通り抜け、目的地のトロッコ列車の起点であり、D51やC56の機関車も保存されているJR嵯峨嵐山駅に着いた。「くらわん会」の盛況とお互いの健康に感謝した一日だった。解散後参加者は、余韻を懐かしむように人力車の姿も見られる嵐山の街などを通って帰路に就いた。

富田朝己記

一番早く咲く紅梅はもう満開に近かった



平野神社は平安遷都に伴って大和から遷座した今木神、久度神、古開神、比賣神の四神を祀る旧官幣大社





平野神社本殿（重文）は、平野造り、比翼春日造りという独特のもの、伊勢、賀茂、石清水、松尾に次ぐ名社

立命館前を左に、金閣寺から仁和寺、広沢池に抜けるきぬかけの路を行く



真言宗仁和寺（御室御所）の二王門は、京都の三大門と呼ばれ江戸時代初期に建てられた時代を代表する建築物

宇多野すり鉢公園でやや遅い昼食を摂った



広沢池は残念ながら水抜きして工事中、水をたたえた姿をイメージしながら嵐山へと進む

車を避けて住宅街を抜け嵯峨嵐山に向かう



トロッコ嵯峨駅の横にC56やD51などのSL機関車が保存されていた

JR嵯峨嵐山駅で解散、余韻を懐かしむように人力車の姿も見られる嵐山の街などを通って帰路に就いた





北野天満宮に梅の香を訪ねて

<行程>

京都地下鉄二条駅⇒北野天満宮⇒平野神社⇒きぬかけの路⇒龍安寺⇒仁和寺⇒宇多野すりばち池公園⇒広沢池⇒JR 嵯峨嵐山駅 9km 2002年02月05日 150名参加